

コード No. 18911

**Anti-Human
Tob (Phosphorylated) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : Tob (Transducing molecule of c-ErbB-2)は、1996年に受容体型チロシンキナーゼ c-ErbB2 と会合する分子として同定されました。その後、N末端側約 110 アミノ酸に相同性領域を有するタンパク質として、Tob2, BTG1, PC3/TIS21/BTG2, ANA, PC3B などが見出され、Tob ファミリータンパク質と呼ばれています。これらはいずれも培養細胞に強制発現させると細胞増殖抑制活性を有することが明らかにされており、この増殖抑制活性は cyclin D1 の発現をブロックすることによっています。一方、Tob は増殖因子などの刺激を受けて Ser152, Ser154, Ser164 が Erk1/2 によりリン酸化されます。このリン酸化により上記の cyclin D1 に対する抑制の解除が示唆されています。このように、Tob およびそのリン酸化は細胞周期における G0 期から G1 期への移行に重要な役割を果たしていると考えられています。

免疫抗原 : リン酸化 Human Tob の部分合成ペプチド (ASSVSS(pS)P(pS)PPFGHS)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1% BSA、0.05% NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : 免疫組織染色 5 µg/mL にて使用可能
使用方法 (ホルマリン固定・パラフィン包埋切片、マイクロウェーブ処理 10 分(10 mM クエン酸緩衝液、pH6.0) が必要)

: ウェスタン・ブロッティング 2 µg/mL にて使用可能

特異性 : ウェスタン・ブロッティングにて確認

参考文献 : 1. Yoshida Y, Tanaka S, Umemori H, Minowa O, Usui M, Ikematsu N, Hosoda E, Imamura T, Kuno J, Yamashita T, Miyazono K, Noda M, Noda T, Yamamoto T. Negative regulation of BMP/Smad signaling by Tob in osteoblasts. *Cell*. 2000 Dec 22;103(7):1085-97.
2. Maekawa M, Nishida E, Tanoue T. Identification of the Anti-proliferative protein Tob as a MAPK substrate. *J Biol Chem*. 2002 Oct 4;277(40):37783-7.
3. Suzuki T, K-Tsuzuku J, Ajima R, Nakamura T, Yoshida Y, Yamamoto T. Phosphorylation of three regulatory serines of Tob by Erk1 and Erk2 is required for Ras-mediated cell proliferation and transformation. *Genes Dev*. 2002 Jun 1;16(11):1356-70.